

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100162		
法人名	アイコーポレーション株式会社		
事業所名	グループホームあい		
所在地	香川県高松市川部町1300番地1		
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果市町受理日	平成30年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●いつでも玄関先やベランダに出ることができて季節を感じられる場面がある。(野菜をベランダ、農園で育てている)公園が目前にあり、気軽に散歩に行くことができる。●チームケアを大切に、常に相手の立場に立って、助け合い思いやりの気持ちで「自分だったら」「家族だったら」と考え話し合う機会を持つようになっている。●職員個人のスキルアップを目標に研修・勉強会に積極的に参加できる体制がある。●子育て世代でも働きやすい職場環境である。●川岡地区の行事、地域の福祉施設との交流を定期的を持ち、グループホームで生活している、地域・社会とのつながりを継続でき、また新しい出会いや馴染みの関係が築ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

河畔の落ち着いた自然環境の中、周囲に調和した平屋の建物である。玄関を入ると左右対称の2ユニットとなっており、共用空間も広く、ベランダへは出入りが自由に行ける。利用者はそれぞれに居場所を得てゆっくりくつろいでいる傍らに、職員が寄り添っている。利用者を中心にした生活の実現を目指して、野菜の収穫や下ごしらえなど役割りや楽しみづくりへの支援がなされており、職員も生き生きと働いている。地域的にも様々な支援者等に恵まれ、協力・支持を得ながら、真に地域に根差した事業所となることを期待されている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成29年11月21日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼で唱和している介護目標達成むけて職員一人一人が個人目標を立て取り組んでいる。毎月の定例会では会長から理念についての話があり、理解が深まるよう努めている	毎日朝礼で理念を唱和している。ミーティングではユニットごとに理念に関する介護目標が共有され、職員は個人目標を設定して実践につなげられている。定例会では運営者による理念についての講話がなされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人員として日常的に交流している	地域での運動会・文化祭・夏祭り等行事に参加。ホームの行事に婦人会がお手伝いに来てくれたり、ホームの文化祭には地域の方にも参加してもらっている	地域での行事に招待され、利用者と参加している。ホームでの行事にも協力関係があり、自然に長い交流が続いている。近所を散歩しても挨拶が率先してできるよう心掛けられている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護専門学生の実習生の受け入れを年1回行っており、ご利用者への影響を配慮しつつ進めている。若い学生とのかかわりは新鮮であり、ご利用者にも職員にも良い刺激となっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第2水曜日に開催。婦人会、市域の方、近隣3町の民生委員、市議会議員、近隣の特別養護老人ホーム職員、行政、ご利用者、職員等が参加している。使用者のホームでの生活や行事を報告し、意見交換を行っている	日頃協力していただいている方が参加され、定期的に会議が開催され主に日々の取り組みの報告がなされている	運営推進会議は、本人やご家族の意見を伺う大切な機会の一つです。個々に事情があると思いますが、ご家族会の発足や開催の更なる工夫等を通じて、会議がより多くの方の意見が聞ける機会となるよう期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議でご意見を頂いている。わからないことがあれ介護保険課に質問をし、良い関係が築けている	2か月に1回の運営連絡会に包括支援センター職員が参加して意見交換がなされている。市役所の担当課にも電話や訪問し、相談できるような関係が築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを目指し「どういものが拘束になるのか」「拘束されたらどう思うのか」等をテーマに定期的に内部研修で学んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族の了承をいただき実施し、経過を見ながら廃止に向けての話し合いを各ユニットで行い、検討・実践している	研修では職員同士がロールプレイングするなどして、利用者理解を深める工夫がされている。定期的な研修では繰り返しの実施にて、全体理解が深められている。玄関やベランダは日中は施錠されておらず、徘徊等へは本人が疲れるまで職員がいつまでも付き添うケアが実践されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修やホーム内勉強会を実施。ロールプレイを用いて利用者の気持ちを理解し、職員一人一人が日頃の言動やケアを振り返りチームで不適切なケアの改善を意識している		

第1ユニット(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解度は低く、勉強の機会を持っていないのが現状である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの方針「できること・できないこと」を分かりやすく説明し、ご利用者の意向に沿っての支援を行えるかを十分に説明し、意見交換を行い、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にご本人の様子を簡単にお手紙でお知らせしたり、面会時等に気軽に何でも言ってもらえるように声かけをしたりと、関係性作りを試みていみる	お手紙や面会時のお声掛けなど実施されているが、面会者も限られており、書面でのやり取りとなっている方も多い	ご家族会の発足などを通じ、利用者と家族、事業所とのより一層深い関係、関心を得ることに期待します
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会・定例会・ユニットミーティングを行い、報告事項・現場職員の意見を聞く場となっている	ミーティング・定例会・各種委員会・管理者会議などで職員やユニットごとの意見や提案を述べる機会が多く持たれており、職員の意見が実践に活かされる工夫がなされている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しと改善を行っている。評価制度を導入し、毎年1回職員全員を対象とし、人事考課表を用いて評価を行っている。全職員対象の研修を、毎月1回開催し、個人の成長・チームでの成長を目標とし、意識・スキルアップのきっかけの場を提供している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については、外部講師を招き、様々な分野の研修を行い、職員のスキルアップに励んでいる。事業所内では、月1回、定例会後に30分程度の勉強会修を行い、皆が意欲的に取り組めて意見交換の場となっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設・事業所のイベントへ参加させていただいたり、ご利用者の入退所等での関わりがあり、意見を聞く場となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたりご本人の希望や思いや不安を聞いて、周囲の人との関係が円滑に出来ていくように職員が間に入り、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がおかれる状況を聞き取り、十分に理解し、どのような要望があるのか、ホームで対応出来るものかを判断していくように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と面談を行い、医療面などご本人に合ったサービスが提供出来るかどうかを検討している。合わない時には他の事業所等を紹介している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の活動にあたり足りないことをさりげなくサポートし一緒に行っている(洗濯・掃除・野菜の下ごしらえ・保存食づくり等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告を行い、状態の変化時には、速やかに連絡をとり伝えている。可能な限り病院受診の付添いをご家族へお願いしている。定期的に面会に来られているご家族もおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族、知人の面会があり楽しい時間を過ごされている。入居前にも行っていてお店に行くこともある	事業所の近辺からの入所が多く、面会や交流がある。家族や職員との外出がケアの一環として行われており、計画的に実施されている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的入居期間の短いご利用者が多く、職員が間に入り話題をふり、他の利用者との関係ができるように配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後に当ホームの対応が難しい場合は、ご本人の体調、ご本人やご家族の希望にそったサービスが提供できる事業所を提案し相談にのっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のしたいことをきちんと確認したり、表情や行動からくみ取るようにしている。可能な限り実現に向けてご家族と相談し、ユニットにて話し合いをしている	家族や関係者に入所以前の情報を聞き取り、なるだけ本人と一緒に行動を共にすることにより一人一人の思いが汲み取られている。言語化、非言語化の情報も職員間で共有され、本人の思いや意向の把握に活かされている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から直接聞き取りを行い、どのように生活してきたのか等を把握するようにつとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事ばかりでなく、出来ることに目を向けるよう努めている。朝・夕に申し送りを行い、職員が情報を共有把握できるようにしている。居室担当を設けているが、まだまだ職員の認識は低く、上手く活用出来ていない現状にある		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを感じ取ったり聞いたりして、ミーティングや職員からの意見を参考にし、介護計画の作成を行っている。現場職員の意見を聞いて作成している。面会時や電話にてご家族の意見や要望を確認している	日頃から利用者の思いを汲み取れるよう心掛けられており、3カ月ごとのモニタリング、会議やミーティングを通じて意見が集約され、本人や家族、職員や医療関係者の意見やアイデアが反映された計画書が作成されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ご本人の言ったことや様子を細かに記録するようにしている。必要に応じて用紙を記録委員で検討・見直ししたり、個別に水分チェック表や食事摂取記録をつけて、ミーティングで話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに応じて買い物や外食への外出支援をしている。基本受診は、ご家族へお願いしているが、ご家族の状況に応じて付添いを行ったり柔軟に対応している		

第1ユニット(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や地域施設のイベントには参加し楽しんでもらっているが、地域資源の活用はあまり行っていない。散髪は2ヶ月に一度美容室が訪問して行ってくれている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続されるか、ホームの協力医療機関へ変更するかを、ご本人の状況を確認し決めている。協力医療機関の主治医には、基本2週間に1回往診していただいております、健康管理に努めている	事業所は本人の入所前後の心身の状態に応じた医療機関に受診を依頼している。協力医療機関の医師の往診があり、薬局とも連携がなされている。往診専門医も治療にかかわり、医師とは24時間連絡が取れる体制にある	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調や表情の変化を見逃さないように、日頃からよく関わり早期発見に努めている。協力医療機関とは24時間体制で連携体制がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の往診時から、気軽にご利用者のことや病気について質問したり出来る関係づくりを心がけている。ご利用者が入院した際には、3～4日に1回は職員がお見舞いし、ご本人の様子や状況の把握をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「終末期の看取り等について」意向確認書を記入していただいている。状態の変化に応じて、その都度医師・ご家族・職員で話し合う機会を持つようこまめに日程を調整し、ホームでの支援の方向性を決定している	入居時に意向確認をした後も、本人の状態が変化する度、医師・家族・職員と状況を話し合う機会が持たれている。ホームでできること出来ないことが説明され、支援方針がその都度説明されている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応研修に積極的に参加したり、社内研修でも勉強できる機会をもうけている。主治医への連絡方法は、わかりやすい場所に掲示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。法人内で防火防災対策委員会を作り、消防訓練やその他の企画をすすめている	防火訓練は年2回実施している。法人で防火防災対策委員会を立上げ、訓練や企画が練られている	施設の特性上、地域の指定避難場所等への移動が困難な方もおられると感じます。法人内の委員会を活かし、近隣や他事業所との協力体制づくりなど、更に災害に強い備えに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはひと声かけてから入るようになっている。ご本人の思いを大切に、誇りを傷つけないように反応や言動に気づきながら、声かけや介助を行っている	利用者は思い思いの場所におられるが、どこにいても一人ひとりのお名前を呼びかけての会話がなされている。利用者職員と距離感近く相手を思いやり、動向に合わせた言葉かけがなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分で決められない方には「これとこれどっちがいい？」等、返事をしやすいように問いかけの仕方を工夫したり、表情の観察やご本人の好みを把握するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり、常にご利用者の希望に添えないこともあるが、ご本人のしたいこととしないことを問いかけ尊重し、ゆっくりとしたペースで過ごせるように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日課として化粧やおしゃれを楽しんでいるご利用者がいる。2ヶ月に1回なじみの美容室に来ていただいて散髪を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けをご利用者と一緒に行ったりお膳拭き等の手伝いをさせていただいている。職員も同じテーブルで同じ食事を食べ、ご利用者の反応や意見を聞いている	お米を精米したり、買い物に行ったり、野菜を作り、収穫したり、利用者が食事作りに参加できる機会が増す工夫がなされている。利用者は一人ひとりの特性を生かして手伝い、食事は利用者職員が一緒にテーブルにつき和やかな雰囲気ですべて食べられている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認をし、記録している。居室から出るのが嫌な時があるご利用者には、時間をずらせて声かけしたり、好みの物を代替で提供したり、居室に持っていく馴染みの職員と一緒に食べたりなどの工夫をしている。一日2回食べないことが続くときは、主治医に相談し指示をもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけや誘導を行っている。自立している利用者の場合、羞恥心から洗面所で義歯を外すのを嫌がられることが多いので、声かけのタイミングや声かけの内容に配慮している		

第1ユニット(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る動作と出来ない動作を見極め、必要な部分の介助のみを行うよう、ケア方法を共有している	身体能力によりトイレを利用できない方については、居室でおむつの交換になるが、ほとんどの方にトイレでの排泄が促されている。紙パンツやパットを利用している方にもできる限り、洗って利用できるスパッツ式のパンツに変更できるよう支援がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶をあまり飲まれない方には、牛乳・豆乳・スポーツドリンクなどを提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴可能。入浴剤など使用し、楽しめる方もいます	入浴日や順番は一応決まっているが、利用者のタイミングや希望による入浴を目指し、可能な限り動向に合わせたケアが行われている。入浴できない時は清拭や足浴・陰部清拭など清潔保持への配慮がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファーン配置を工夫し、食席以外にホールや廊下にくつろげる場所がある。室温調節を適温に設定し、定期的に寝具干しや洗濯を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者個々の介護記録に最新のお薬情報が添付されている。変更時には申し送りや業務日誌を使って職員間での情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業をしたことがある人が多く、農園で採れた野菜を職員と一緒に収穫したり、食材(野菜)の下ごしらえ、草抜きをして職員に教えてくれる。食事の準備や洗濯たたみを、自分の役割とと思ってくださっているご利用者もおられる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩に行ったり、玄関先のベンチにて体操や談話をして過ごし、外気にあたり季節を感じる事が常に出来ている。体調や相性に配慮しながら、小グループで遠足やドライブに定期的に出かけている。ベランダにご利用者と一緒出来る畑も職員が作った。外の空気にふれ、収穫を楽しんでいただいている	一人ひとりの体調や希望に寄り添いながら、近くの公園を散歩している。少人数ながら車で行事や行楽などで外出する機会を作り参加している。本人の何気ない言葉から希望があることに気づき、映画に行くなど職員で相談しあい実現できるよう努められている	

第1ユニット(北館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的には事務所にて預かることとしているが、外出時にご本人がお金を支払う機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外のご家族から電話がかかってきた時、ご本人につないでいる。手紙には、日頃の様子の写真と同封している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩にて外出下祭に、拾った落ち葉や玄関先で摘んだお花を食席に飾ったりし、季節を感じてもらっている。季節にあったポスターを壁に掲示している。行事を行う前には、何の行事があるのかポスターと一緒に作ったりしている	共用空間は広く使われ所々に椅子やソファを配置し、くつろげる空間となっている。温度設定や採光はなるべく自然に近いものが取り入れられており、居心地の良い生活感がつくり出されている。また、外出した際の落ち葉や花を利用した飾りなど、季節感あふれる工夫がなされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	ご利用者が過ごしやすいようにソファの配置にきをつけている。ペランダに小さい畑を作り、ご利用者様も畑作業しやすい所を作った		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に暮らせるよう空気の入換え、汚染物等の回収をこまめに行っている。ご家族の写真や飾り、馴染の物やTVなどもちこんでいる	居室はこまめに窓を開けて換気に努められている。室内には思い思いの手作りの作品や、衣服などがあり、本人が心地よい居場所として解り易いよう工夫して、写真が飾られたり、手紙が置かれるなどしている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札を、本人がわかりやすいように目の届くところに貼ったり、目印をしたりと工夫している。廊下には手すりが付いているため、居室からトイレへ行く際も安全である		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼で唱和している。理念をもとに各ユニットで立案した介護目標を設定し、介護目標達成むけて職員一人一人が個人目標を立て取り組んでいる。毎月の定例会では会長から理念についての話があり、理解が深まるよう努めている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での運動会・文化祭・夏祭り等行事に参加。ホームの行事に婦人会がお手伝いに来てくれたり、お琴、お茶会、獅子舞などの慰問がある。ホームの文化祭には地域の方にも参加してもらっている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護専門学生への実習生の受け入れを年1回行っており、ご利用者への影響を配慮しつつ進めている。若い学生とのかかわりは新鮮であり、ご利用者にも職員にも良い刺激となっている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第2水曜日に開催。婦人会、市域の方、近隣3町の民生委員、市議会議員、近隣の特別養護老人ホーム職員、行政、ご利用者、職員等が参加している。使用者のホームでの生活や行事を報告し、意見交換を行っている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議でご意見を頂いている。わからないことがあれ介護保険課に質問をし、良い関係が築けている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを目指し「どういものが拘束になるのか」「拘束されたらどう思うのか」等をテーマに定期的に内部研修で学んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合は、ご家族の了承をいただき実施し、経過を見ながら廃止に向けての話し合いを各ユニットで行い、検討・実践している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修やホーム内勉強会を実施。ロールプレイを用いて利用者の気持ちを理解し、職員一人一人が日ごろの言動やケアを振り返りチームで不適切ケアの改善を意識している

第2ユニット南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解度は低く、勉強の機会を持っていないのが現状である
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの方針「できること・できないこと」を分かりやすく説明し、ご利用者の意向に沿ったの支援を行えるかを十分に説明し、意見交換を行い、同意を得ている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にご本人の様子を簡単にお手紙でお知らせしたり、面会時等に気軽に何でも言ってもらえるように声かけをしたりと、関係性作りを試みていみる
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会・定例会・ユニットミーティングを行い、報告事項・現場職員の意見を聞く場となっている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しと改善を行っている。評価制度を導入し、毎年1回職員全員を対象とし、人事考課表を用いて評価を行っている。全職員対象の研修を、毎月1回開催し、個人の成長・チームでの成長を目標とし、意識・スキルアップのきっかけの場を提供している
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修については、外部講師を招き、様々な分野の研修を行い、職員のスキルアップに励んでいる。事業所内では、月1回、定例会後に30分程度の勉強会修を行い、皆が意欲的に取り組めて意見交換の場となっている。また、段階ごとの研修を計画的に行っている。(新人研修・管理者研修等)法人外の研修にも受講の希望を募り、積極的に参加できている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設・事業所のイベントへ参加させていただいたり、ご利用者の入退所等での関わりがあり、意見を聞く場となっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたりご本人の希望や思いや不安を聞いて、周囲の人との関係が円滑に出来ていくように職員が間に入り、関係作りに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がおかれる状況を聞き取り、十分に理解し、どのような要望があるのか、ホームで対応出来るものかを判断していくように努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に介護支援専門員・管理者が、ご本人と面談を行い、医療面などご本人に合ったサービスが提供出来るかどうかを検討している。合わない時には他の事業所等を紹介している。その人やご家族の困りごと等を聞いてもらう。ご本人に、入所前にホームの見学をしてもらうこともある
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜の下ごしらえや切り干しやたこ干し作り等、保存食作りを一緒に行うなど、昔作っていたことを楽しみながら行う機会を設けている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告を行い、状態の変化時には、速やかに連絡をとり伝えている。可能な限り病院受診の付添いをご家族へお願いしている。定期的に面会に来られているご家族もおられる
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会は少なく、行きつけの場所への外出もほとんど出来ていない
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所生活が長いご利用者もおり、ご利用者同士のなじみの関係が作れている。ご利用者が隣のご利用者の出来ないことを手伝ってあげるという場面もある。男性のご利用者が少ないため、職員が間に入り話題をふり、他のご利用者と関わられるように配慮している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後に当ホームの対応が難しい場合は、ご本人の体調、ご本人やご家族の希望にそったサービスが提供できる事業所を提案し相談にのっている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のしたいことをきちんと確認したり、表情や行動からくみ取るようにしている。可能な限り実現に向けてご家族と相談し、ユニットにて話し合いをしている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から直接聞き取りを行い、どのように生活してきたのか等を把握するようにつとめている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事ばかりでなく、出来ることに目を向けるよう努めている。朝・夕に申し送りを行い、職員が情報を共有把握できるようにしている。居室担当を設けているが、まだまだ職員の認識は低く、上手く活用出来ていない現状にある
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを感じ取ったり聞いたりして、ミーティングや職員からの意見を参考にし、介護計画の作成を行っている。現場職員の意見を聞いて作成している。面会時や電話にてご家族の意見や要望を確認している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ご本人の言ったことや様子を細かに記録するようにしている。必要に応じて用紙を記録委員で検討・見直ししたり、個別に水分チェック表や食事摂取記録をつけて、ミーティングで話し合っている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに応じて自宅への外出支援をしている。基本受診は、ご家族へお願いしているが、ご家族の状況に応じて付添いを行ったり柔軟に対応している

第2ユニット南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や地域施設のイベントには参加し楽しんでもらっているが、地域資源の活用はあまり行えていない。散髪は2ヶ月に一度美容室が訪問して行ってくれている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前の主治医を継続されるか、ホームの協力医療機関へ変更するかを、ご本人の状況を確認し決めている。協力医療機関の主治医には、基本2週間に1回往診していただいております、健康管理に努めている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調や表情の変化を見逃さないように、日頃からよく関わり早期発見に努めている。協力医療機関とは24時間体制で連携体制がある
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の往診時から、気軽にご利用者のことや病気について質問したり出来る関係づくりを心がけている。ご利用者が入院した際には、3～4日に1回は職員がお見舞いし、ご本人の様子や状況の把握をしている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「終末期の看取り等について」意向確認書を記入していただいている。状態の変化に応じて、その都度医師・ご家族・職員で話し合う機会を持つようこまめに日程を調整し、ホームでの支援の方向性を決定している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応研修に積極的に参加したり、社内研修でも勉強できる機会をもうけている。主治医への連絡方法は、分かりやすい場所に掲示している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。法人内で防火防災対策委員会を作り、消防訓練やその他の企画をすすめている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入る際にはひと声かけてから入るようにしている。ご本人の思いを大切に、誇りを傷つけないように反応や言動に気づきながら、声かけや介助を行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか自分で決められない方には「これとこれどっちがいい？」等、返事をしやすいように問いかけの仕方を工夫したり、表情の観察やご本人の好みを把握するようにしている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れがあり、常にご利用者の希望に添えないこともあるが、ご本人のしたいことしたくないことを問いかけ尊重し、ゆっくりとしたペースで過ごせるように配慮している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日課として化粧やおしゃれを楽しんでいるご利用者がいる。2ヶ月に1回なじみの美容室に来ていただいて散髪を行っている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付けをご利用者と一緒に行ったりお膳拭き等の手伝いをさせていただいている。職員も同じテーブルで同じ食事を食べ、ご利用者の反応や意見を聞いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認をし、記録している。居室から出るのが嫌な時があるご利用者には、時間をずらせて声かけしたり、好みの物を代替で提供したり、居室に持っていく馴染みの職員と一緒に食べたりなどの工夫をしている。一日2回食べないことが続くときは、主治医に相談し指示をもらっている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声かけや誘導を行っている。自立している利用者の場合、羞恥心から洗面所で義歯を外すのを嫌がられることが多いので、声かけのタイミングや声かけの内容に配慮している

第2ユニット南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る動作と出来ない動作を見極め、必要な部分の介助のみを行うよう、ケア方法を共有している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶をあまり飲まれない方には、牛乳・豆乳・スポーツドリンクなどを提供している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日しているので、いつでも入れるようにしている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファの配置を工夫し、食席以外にホールや廊下にくつろげる場所がある。室温調節を適温に設定し、定期的に寝具干しや洗濯を行っている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が常にどの職員でも分かるように、最新の情報(効果効能・副作用の記載があるもの)が個人ファイルにとじている。風邪など単発的に処方されているお薬は、介護記録の服薬確認チェック表の定期約の欄外に記録している。誤薬が内容4回チェックできる一覧表を作成している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業をしたことがある人が多く、農園で採れた野菜を職員と一緒に収穫したり、食材(野菜)の下ごしらえ、草抜きをして職員に教えてくれる。食事の準備や洗濯たみみを、自分の役割とさせていただきご利用者もおられる。日記をつけたり、カレンダーの色塗りを楽しみにしているご利用者もいる
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園まで散歩に行ったり、玄関先のベンチにて体操や談話をして過ごし、外気にあたり季節を感じる事が常に出来ている。また、職員と一緒に毎月一回帰宅し、自宅周辺の食堂に寄っている。体調や相性に配慮しながら、小グループで遠足やドライブに定期的に出かけている。ベランダにご利用者と一緒に出来る畑も職員が作った。外の空気にふれ、収穫を楽しんでいただいている

第2ユニット南館

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、基本的には事務所にて預かることとしているが、外出時にご本人がお金を支払う機会を設けている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外のご家族から電話がかかってきた時、ご本人につないでいる。手紙には、日頃の様子の写真を同封している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩にて外出下祭に、拾った落ち葉や玄関先で摘んだお花を食席に飾ったりし、季節を感じてもらっている。また、手作りの日めくりカレンダーを目のつくところに置き、ご利用者が月日を意識できるようにしている。季節にあったポスターを壁に掲示している。行事を行う前には、何の行事があるのかポスターと一緒に作ったりしている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダに小さい畑を作り、ご利用者様も畑作業しやすい所を作った
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に暮らせるよう空気の入換え、汚染物等の回収をこまめに行っている。ご家族の写真を飾ったり、亡くなられた息子様のお仏壇を置いて、居心地良く過ごせるように心がけている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札を、職員とご本人で作成して貼ったり、居室が分かりにくい方には、目の届くところに名前を貼ったり、目印をしたりと工夫している。リビングや廊下は、広くて開放感があり、廊下には手すりが付いているため、居室からトイレへ行く際も安全である